

職員による自己評価

A環境面

療養通所と共有の限られたスペースの中で環境調整をして児に応じた環境づくりをその都度行なっている。施設内は毎日清掃し清潔は守られている。床スペースでの遊びは所内の別スペースも利用するようになった。必要に応じて外気浴も取り入れている。

B児童への支援内容

今年度は4名の利用者。児によって発達の違いは大きくあるが、アセスメントにあたりスタッフ間で基本的な発達段階は共通認識を持ちつつ客観的な評価ツールは用いていない。ただしスタッフ間の視点をそろえるためのアセスメントシートは独自で作成している。

年間計画に沿い、季節の活動は継続している。

C関係機関との連携

今年度は学童への移行対象者はおらず施設間連携の機会はなかった。活動面で当施設では支援が不足する例があり、支援者会議を開き支援の方向性を模索した。

D保護者への説明責任・信頼関係

まとまった時間を取って面談をすることはスケジュール上難しく送迎時の短時間でコミュニケーションをとっている。父母の会はないが「悠 YOU だより」の定期発行は継続できHPにもアップロード出来るようになった。

E非常対応

療養通所と共通して防災訓練の実施がある。緊急時マニュアルは整備しているが折に触れ周知するなど浸透させる必要がある。

保護者による評価

A環境面

十分なスペースではない。こどもの状況に応じて活動の場が選択されている

スタッフ病欠等の際には人員不足を感じた

B児童への支援内容

細かに状況など共有して支援してもらえていると感じられる、日々の活動もパターン化しないよう工夫されている

C事業所からの情報発信

必要な説明はされている

家族から医療機関や療育センターでのエピソードを共有している

訪問看護との連携があり、情報共有や相談はできた
お便り受け取っている

D非常対応

避難訓練やマニュアル周知は十分ではない

満足度として通所を楽しみにしてもらえている
こと家族も満足していると感謝の言葉をいただいた

事業所内での分析

【共通点】

環境面での工夫をしている事は利用者へきちんと伝わり、理解が得られている。

支援内容も発達にあった内容を提供できている

保護者とのコミュニケーションは取れている

緊急時対応やマニュアルについての共有は十分でない

【相違点】

分析・検討してみて…

事業所の強み

制限がある中で最大限支援するために工夫を凝らすこと
日々の観察からのアセスメントを適切な支援に繋げていくこと
記録書や送迎時など様々な手段を用いて支援内容の伝達を行う事、相談事に真摯に対応すること

事業所の改善点

マニュアル等基礎部分の共有が不十分である

事業所の改善への取り組み

緊急時対応マニュアルや災害時などに向けた訓練について、定期的に職員・利用者・利用者家族へ情報提供する。
各児の緊急時連絡フローを定期的に共有する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所で実施している事が齟齬なく伝わっている事がとてもうれしく感じた。
日常支援のみならず緊急時の対応等について改善をして支援が厚く出来る様に業務改善に努めたい。

事業所名 悠 YOU こどもデイ
担当者 那須 夕子